

令和３年度 第１回多治見市福祉教育読本編集委員会

日 時：令和３年７月１３日（火）

15:30～16:50

場 所：多治見市総合福祉センター４階会議室

出席委員： 加藤政也委員、河合尚子委員、久野智治委員、小島章予委員
小林実委員、杉原裕子委員、前川栄一委員、山田恵美子委員
吉田寛子委員

（50音順）

事務局： 福祉部長 鈴木良平、福祉課長 春田正孝
福祉課 前田ひさ佳

1 あいさつ

2 委員委嘱

3 自己紹介

4 委員長、副委員長の互選

5 議題

1 多治見市福祉教育読本の概要と編集スケジュールについて

2 編集方法について

3 その他 次回の予定について

○福祉課長 ただいまから、第１回多治見市福祉教育読本編集委員会を開催する。初めに、鈴木福祉部長から挨拶を行う。

（福祉部長 挨拶）

○福祉課長 委員の委嘱について説明する。

○福祉課長 委員から自己紹介をお願いする。

（各委員 自己紹介）

○福祉課長 事務局側の自己紹介をする。

○福祉課長 「多治見市福祉教育読本編集委員会設置要綱」第５条の規定により、委員長及び副委員長は委員のなかから互選とし、委員長、副委員長の選出をお願いする。どなたか推薦や立候補等はないか。

（推薦、立候補なし）

○福祉課長 事務局案として、委員長に多治見市教育研究所の久野委員、副委員長に子ども支援課の小島委員をお願いするがいかがか。

（各委員 異議なし）

○福祉課長 久野委員、小島委員は各々委員長席、副委員長席に移動していただく。

(久野委員、小島委員 席の移動)

○福祉課長 これからの進行は久野委員長にお願いする。

○委員長 あいさつを兼ねて多治見市教育委員会がインクシブル教育に取り組んでいることを説明する。また、この会議の公開をはかる。

(各委員 異議なし)

○委員長 議事録等の取り扱いについて事務局から説明願う。

(事務局 議事録、ホームページについて説明)

○委員長 それでは、議題1 多治見市福祉教育読本の概要と編集スケジュールについてを議題とする。事務局から説明願う。

(事務局 多治見市福祉教育読本の概要とスケジュールの説明)

○委員長 今までの説明で質問あるか。

(特になし)

○委員長 議題2 編集方法についてを議題とする。事務局から説明願う。

(事務局 編集方法について説明)

○委員長 ただいまの説明で意見や質問はあるか。

○委員 「ひろがる！」P40の高齢者体験用具はレンタルできるので小学校でも体験用具を活用してほしい。

○委員長 前回のアンケート調査はどのような内容か。

(事務局 アンケート調査について説明)

○委員 福祉教育読本の活用として、総合学習の中に取り入れてはどうか。福祉教育読本は印刷部数が少ないとのことなのでデータ化によるタブレット活用が有効である。タブレットでの活用体制を整えれば充実すると思われる。

○委員 6年生の福祉教育として高齢者施設の訪問があるが、コロナ禍でできない。TV会議ができれば良い。

○委員 例えば中学1年生で行う「認知症サポーター」体験等は単発的に実施している。小学校から継続的にできると良い。

○委員 前は任期2年間のうち1年目で生徒用を、2年目で教師用手引きを改訂した。教師用手引きがあるので授業に安心して臨めた。

○委員 総合福祉センターを見学に来た小学生に福祉関係のことを質問すると、「わたぼうし」で事前学習をしているのですぐに回答することができた。よく活用していると思う。

○委員 陶技学園について、コロナ禍以前は南姫小学校と交流をしていたができなかった。オンラインでTV対面等ができると良い。施設の子も小学生に会いたがっている。

○委員 子ども達は、障がいのある子と触れ合う中で気づき理解する力をもっている。交流の機会を設けてほしい。この冊子は苦労してできたものだとわかるが、興味を持った子は理解を深めるが、そうでない子はどのように捉えるだろうか。しかし福祉をとらえるきっかけになる本だと思う。「わたぼうし」の編集で発達障がいの項目を

入れる予定とのことだが、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいをバランスよく説明されるとよい。また、福祉について障がい者や高齢者だけではない多様性の理解に広がるとよい。

○委員長 今までの意見でこの福祉教育読本が福祉を知るきっかけになっていること、障がい者体験等をするうえで有効活用されていることがわかる。福祉をどこまで含めるのかは検討すべきだと思う。

○委員 通常学級にも支援学級にも発達障がいの子はたくさんいる。障がい児本人や周りの子はどう感じるのか考えて読んだ。

○委員長 福祉はみんなが幸せになることをお互いに理解することなので、掲載については配慮が必要になる箇所もでてくる。掲載内容は十分に検討すべき。また、掲載写真は本人に承諾をとっているか。

○事務局 承諾していただいている。今回も承諾を得る予定である。

○委員 幼稚園、保育園にも要支援児がクラスにいたので園児達は身近に感じている。また、この本が園に1冊あれば先生方は園児に教えやすい。それが小学校の福祉教育の体制整備に繋がっていくのではないかな。

○委員長 園児が施設に出かける等の交流はあるか。

○委員 過去には支援の必要な子が園に来る等の交流はあったが現在はない。

○委員長 幼児期からの交流の経験は大事だと思うので園にも冊子を配布するのではないかな。次にITの活用について、どのような形で使っていくのか。イメージはあるか。意見や質問があればお願いしたい。

○委員 写真がそのままタブレットに映り、感想を書き込んだりできると良い。

○委員長 学校のタブレット活用の一例として書き込んだ意見で意見交換している。中学生になるとレポートはタブレット上の写真を取り込んで貼り付ける等して作成している。事務局はどのように考えているか。

○事務局 福祉教育読本データをタブレットで読む程度を考えている。データ化することでどのように展開し、どのように活用するのかは先生方で工夫していただけたらと思う。また、精神障がいや発達障がいについてどのように掲載するかは検討すべきである。何らかの形で掲載（提供）すれば、生徒のとらえ方はいろいろあるが展開していくのではないかな。

○委員長 今年度は冊子の作成とデータ化でよいということか。また配布はどのようにしているか。

○事務局 予算の範囲内で冊子とデータ化との両方を考えている。それができれば多くの生徒が活用できる予定。現在は「わたぼうし」は必要に応じて各小学校に送付し、「ひろがる！」は毎年4月に新1年生分を各中学校に配布している。

○委員 小学校の「わたぼうし」は学校保管で共有して活用している。

○委員長 データ化することで福祉教育だけでなく他教科でも活用できる。その他質問や意見があればお願いしたい。

○委員 いじめや障がいに対する偏見についてを読本に盛り込むべきか。

- 委員長 福祉をどの範囲までとらえて盛り込んでいくのかは検討する必要がある。また、データ化するとだれの目にも触れてしまうので、その点についても検討すべき問題である。いじめに関しては道徳の授業等で学ぶ機会があるので、読本に盛り込むかは検討すべき。ほかに質問や意見があればお願いしたい。
- 委員 使用する先生側も、何を目的にどう生徒に教えるか等を明確にしておかないと生徒に指示できない。また、タブレットで見るだけでなく動きや映像があると、体験に繋がる。
- 委員長 QRコードを読みとってインタビュー等を映像で見ることができると良い。
- 鈴木部長 手話のページについて、絵だけではわからないので動画にできると良い。
- 委員長 その他、全体としての質問はあるか。
- (特になし)
- 委員長 議題3 その他 次回の予定についてを議題とする。事務局より説明願う。
- (事務局 次回の予定の説明)
- 委員長 これにて第1回福祉教育読本編集委員会を終了する。